

議 長 会議を再開します。 (午後1時15分)

々 それでは、青木議員の一般質問を行います。6番青木議員。

6番 通告順に従いまして一般質問をさせていただきます。

青木議員

昨今、新聞紙上を賑わしております三江線の存続についてであります。まず三江線は1975年、昭和50年8月31日、全線開通を致しました。全線開通当初の1976年の一日平均の乗客数は4,158人でしたが、2014年には183人に落ち込みました。今現在の赤字額は10億円になるようでございます。平成24年10月から12月に掛けてバスによる増便社会実験を実施しましたが、乗車人員増には至りませんでした。JRは、この実験の結果で存廃を判断するものではないとしていましたが、10月15日に突然、三江線の廃止を検討している事が分かりました。1975年に全線開通し、今年8月に40周年を迎え盛大に式典を終えたばかりでありました。度重なる集中豪雨に見舞われるもJRの経営努力もあり維持されてきました。三江線は長年に亘って沿線住民の生活を守り、陰陽を結ぶ重要な役割を担ってきています。又、多くの方が観光目的で訪れ沿線の「春の桜」「秋の紅葉」という景観を楽しんでおられます。この三江線は広島県、島根県と2県に跨がる全長108.1キロの長い路線です。この長い三江線が仮に廃止になるとしたら、全国のローカル線の廃止に歯止めが掛からなくなるのではと思います。赤字ローカル線の維持の為には、地方自治体の自主財源の乏しいところに税が再配分される制度があるように、地方ローカル線に対しても国、県、自治体などによる財源投入をしても維持していくという仕組みが不可欠ではないかと思えます。特に国は国鉄を民営化した時点で、人口減になれば当然、赤字になることは想定されたと思うので、今からでもそういう仕組みを作るべきであろうと思えます。

そこで、まず1点、地方のローカル線は人口減が続く中においては、全国的にも赤字幅は増えるばかりです。国にも助成していただくよう要請すると共に、島根県、広島県、沿線自治体で事業費の一部を補填する仕組みを検討されては如何か。

2点目、現在、鉄道事業化の撤退に関する規制は、事前届出制になっているので、JRに対し安易に廃止する事のないよう沿線住民、関係自治体と十分協議するよう要請して下さい。

以上、2点、国への要請と特に島根県、広島県選出国會議員に要請いただくと共に、三江線改良利用促進期成同盟会でも前向きに早期に決定をしていただきたいと思えます。以上、終わります。

議 長 それでは、青木議員の「JR三江線の存続について」に対する答弁をお願いします。番外三宅町長。

番外  
三宅町長

青木議員の「三江線の存続について」のご質問にお答え致します。

JR三江線につきましては、10月16日の新聞で突然この報道があったところがございます。議員の皆様をはじめ、町民の皆様には、大変なご心配をお掛けしているところがございます。

11月6日には、三江線改良利用促進期成同盟会の臨時総会を開き、各市町の把握している状況を確認すると共に、今後の対応を協議したところがございます。

その中で、各市町の把握している内容に違いがある事から、直接JR西日本の社長から真意を聞き、その上で今後の対応を協議する必要があるという結論に達しまして、先日、11月27日に6市町の首長と議長がJR西日本本社を訪ね、真鍋<sup>まなべ</sup>社長から、直接話を聞いたところがございます。

これからは、島根県、広島県、両県とも連携を取りながら、JR西日本から提示されました内容について、6市町で十分な協議検討を行い、対応していく事としております。

先般行いました、臨時の自治会長会議の中でも存続を求める意見をいただいておりますし、様々な場面で、町民の皆さんから、存続に向けた意見をいただいております、それらの声を十分に受け止め、検討を進めていきたいと考えております。

行政報告の中でも触れましたが、三江線は、地域住民にとって欠くことのできない重要な公共交通機関と考えておりまして、青木議員から提案のありました、運営に対する支援や、沿線住民や関係自治体との協議、両県選出の国会議員の皆様への協力要請などにつきましても、この期成同盟会の中で検討させていただきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。6番青木議員。

6番  
青木議員

今の2点については、期成同盟会の中で検討していただくという事でありますけれども、今日の新聞を見ますと来年3月には廃止表明をするというような事が出ておりました。12月19日、6市町で総会を開くという事でありますけれども、過去いろんな経過を見てみますと何となく期成同盟会の会議と言いますか、話し合いと言いますか、非常に後手後手にまわっているような気がしまして、これじゃあちょっと駄目かなというふうに思う訳です。国会議員さんとか、そういう事に対する要請については早くやっておかないといけんかったのではないかなと。この件については、いろいろ言いましても今の政権というのはなかなかそういうところがあると思って難しいのではないかと思いますけれども、取り敢えずは広島県、島根県のそういった国会議員の皆様方への要請というのは、もうちょっと早くやるべきではなかったかなというふうに思っております。今まで利用促進期成同盟会としてJRと色々な存続要請について話をされておりますけれども、この提案と言いますか、その中で話をした訳でありますけれども、事業費の一部負担とか或

6 番  
青木議員

いは上下分離方式を取り入れるとか、そういう事の協力しますとかという事が無かったので、先ほど言いましたけれども25年の10月ですか12月にかけての試行、その件にしても全く人数が増えなかったという事を含めて、廃線にするというような事があるのではないかと思います。非常にそれは遅いわけですけれども、その国に対しても先ほど言いましたけれど当然、こういった元国鉄で運営したものが民間へさせるという事になると、民間というのはどうしても利益をする会社ですので、当然その儲からないところは廃止するというのはこれは目に見えている訳でありまして、そういう観点からしても、やはり国がもうちょっと地方の三江線に限らず、そういったローカル線に目を向けて支援をするという仕組みというのも大事ではないかなと思いますので、この件については絶対にその期成同盟会で話をさせていただき、東京へ行ってでもそういった要請をしていただきたいなというふうに思いますけれども、そこら辺りはどうでしょうか。県選出の広島県2県と国会議員の皆さん方も当然、行かれてそういったお願いをするという事をしないと、とてもじゃないけど今日の新聞からすると来年3月には廃線するという事を表明するという事を言ってますので、早急にそういった事をやらないと間に合わないんじゃないかと思いますので、そこら辺りも総会で何とか検討していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

議 長

番外三宅町長。

番外  
三宅町長

まず1点、確認をしておきますが、先般、本社に行って真鍋社長からありました中で、「3月末をもって廃止する」、こういう表明をするという事は一切言っておられません。3月末迄のところJRとしての新たな公共交通体系というものを方針を出したいというお話はありました。それでこの三江線の今回の問題につきましては、6市町が連携を取りまして足並みを揃えて一丸となって取り組んでいこうという事にしております。今、青木議員からありましたような事につきましても、この期成同盟会の中で十分に話し合っ

て進めていきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。6番青木議員。

6 番  
青木議員

こういう事を言ってもどうにもならないかとも思いますが、岩泉線<sup>いわいずみ</sup>というのが廃止にされたというのが26年3月。これは今のバスに移行しているという事でありまして、これは平成24年、輸送密度が19人、三江線は60人、それ以後44人、50人という事で廃線になったというふうな事が言われております。それとまた22年に大災害が土砂崩れがあつて大変な費用が掛かるという事も1つの原因。また専門家に言わせると非常に急峻であると事故が起こりそうな沿線が有るという事で、これは撤退をするというふうな事になったようでございます。また可部線についてもJR側存続に

6 番  
青木議員

必要な目標集客数を地元で提示したけれども、それに達しなかったというのが廃止の理由になったと地元の皆さんが言っておられます。そういった面においては非常に三江線も社会実験した時に人数は増えない、或いはその後いろいろな実験をしても増えないというところが原因になったのだらうと思えますので、そこら辺りはそれと致しましても非常に時間が無いという事があります。先般、観光協会の有田さんといろいろ話をした訳ですけれども、非常に廃線をするという事が分かった以後、10月中には約400人。最高1日67人の方が訪れたと。それ以上、毎日いっておられないかとは思いますが、11月が600人、平均30から40人。川本駅を12時09分に入りますので、約1時間40分ぐらいですか、ちょうど昼食を食べるといような事もあって、川本の街の中を歩かれて食堂へ入って食事をされると。その中でいろいろと「マジオム」とか、これは「マジカルオムレツ」か何かという事ですけれども、或いは「とり天定食」、「唐揚げ定食」、「カツカレー定食」、エゴマ油を使った「担々麺」、「お好み焼き」、「そば寿司定食」、「うどん寿司定食」。こういうのが非常に安くて量も多いし美味しかったといような事を皆さんが口を揃えて言っておられたという事もお聞きしました。またそういった中で皆さん方と話をしたり、皆さんの思いと言いますか、その中ではやっぱり鉄道とバスではぜんぜん違う。また邑智郡は高齢化率も高く運転免許証も無くなる人も今後、増えるということ。或いは三江線が無くなると駅名が消える。それから或いは過去、今まで全国47都道府県中45県の皆さん方が訪れているという事を言っておられました。それと三江線、先ほども言いましたけれども、沿線では「春は桜」「秋は紅葉」と綺麗であると、そういう観点から絶対に残して下さいという意見もあったようでございます。JR東日本ですか、これはいろんな事をポスター等でたいへんな名所だという事をしておられるという事で、非常に東日本はそういった面では可成りそういった交通機関を利用する事があるのですが、JR西日本の場合は、そういった事が全くどうも無いようだという事も言っておられました。もうちょっと役場の観光協会の有田さんと役場の担当課はもうちょっといような面で連携を取られて、今現在こういう状況だという事を全国に流されたら、まだまだ訪れる人が増えるのではないかなというふうに思っております。それと署名活動もあれからやられて今150名の署名活動をやっているという事を言っておられました。また町の商工会の皆さんも、この前会議を開いて12月8日ですか、また会議を開くという事で署名活動を川本、美郷、桜江、邑南、4町でそういった署名活動をやるという事を言っておられました。その為に官民あげて三江線を守るという事を行っておりますので、そういった面からも是非とも期成同盟会でありますけれども、やはり我々の三江線を守るための議員連盟、或いは三江線活性化協議会ですか、そういった団体とも同じ上にたって、やっぱりそういった運動をしないとなかなか運動にならないのではないかなと思う訳です。それでちょうど議員連盟も先般会議をやりまして、そういったいろんな請願とか国会議員さんへ対しての要請もする

6番  
青木議員 　　という、それについては出来れば期成同盟会の皆さん方と一緒にやればなという事を言ってますので、ちょうど景山会長さん、或いは議員連盟の西嶋議長さん、この方々が会長でありますので、そこら辺り美郷の方で話をいただいて出来ればいろんな事を一緒にやるという話を今度、総会の中でやってもらえればと思います。そういう話を検討していただけますか。話だけでも出していただいて是非とも一緒に共同歩調でやらんとバラバラではちょっと駄目だと思うので、国会議員さん辺りも一緒にやればなというふうに思っていますけれども。

議 長 　　番外三宅町長。

番外  
三宅町長 　　繰り返しになりますが、この問題につきましては6町、足並みを揃えてという事で取り組ん参ります。今度19日は期成同盟会の会を持ちます。三江線の存続の道を探る事につきましては、みんな同じでございますので、いろんな方策についてその場でこれから協議をしていきたいというふうに考えております。

議 長 　　再質問ありますか。6番青木議員。

6番  
青木議員 　　おそらく向こうが提示してくるのはバスだと思いますけれども、バスというのはいろいろ問題点が多くございます。時間が掛かる、道路が狭い箇所がありますね。それから雪が降ったら、おそらく即休止。或いは定時運行が出来ない。バス停には屋根が無くて暗くてトイレも無いと。それからバスにもトイレが無い、というふうな事があって、それから乗り心地が悪いと言いますか揺れて車酔いをするというような事もありますので、これはバスは受け入れられないんじゃないかなと提案してきたと思うのです。便数は増えてもそういった事を考えた場合には、なかなか厳しいかいなという事で、出来れば三江線存続だけで活性化協議会の中で話を皆さん方そういう気持ちを持っておられますので、それ一本でいくということを皆さん方で決意をしていただきたいと思いますが、如何でしょうか。

議 長 　　番外三宅町長。

番外  
三宅町長 　　思いは三江線を存続していこうという思いで今やっております。そういう中でこれからいろいろ検討して参りますが、やはり最終的には住民の生活と住民の地域交通という事を、そういう視点もですね大切にしながら総合的に考えながら検討する必要があるかと思えます。当面は、この三江線存続というところで一丸となって取り組んで参ります。

議 長 　　再質問ありますか。6番青木議員。

6 番  
青木議員

J R 側は、おそらく 27 日ですね、新交通プランについて今年度末までに方向性についてボールを返してもらいたいと、来年度以降こちら側が出す案が適当かという事の検討に入れれば良いという事を、どうも言っているようでもありますけれども、この新プランについては当然、何か内容があったんですよ、新プランについては。おそらく総会の中で案について検討されると思いますけれども、何とか三江線で存続するという事をやっぱり固い決意のもとにやっぱり J R 側と交渉していただければなというふうに思います。新プランを受け入れたらローカル線が廃線に繋がる可能性があるとおそらく新プランって言ったら先ほども申しましたけれどもバス輸送だと思しますので、それ以外に三江線にとって変わるものは無いと思しますので、そこら辺りもちゃんとした頑として三江線でいくという気持ちで、出来るだけ長引かせていただきたいなというふうに思っておりますので。

議 長

番外三宅町長。

番外  
三宅町長

今ありました J R が提案しております新交通プラン、この検討のテーブルに着くか着かないか、それを検討する段階では未だないという事でありまして。今、繰り返して申し上げておりますが、今は三江線存続というところで動いていきたいというふうに考えています。

議 長

再質問ありますか。

6 番  
青木議員

分かりました。それでその事も言おうかなと思っていましたので、出来ればそのテーブルに着かずに、こちらがちゃんとした段階でまた作るという事で、出来ればそのテーブルに着いて欲しくないなという気持ちでありますので、出来るだけ先延ばしと言いますか、そういう事でやっていただければと。それとまた住民の皆さん方の声というのがなかなか聞ける機会もないと思えますので、再度また住民の皆さんとの話し合いをしようと思っておりますので、そこら辺りを 3 月までには、とても間に合わないという事があるかと思っておりますので、よろしくお願い致します。頑としてテーブルには着かないという事をお願いしておきますので。

議 長

番外三宅町長。

番外  
三宅町長

これは大変な大きな問題でございまして、来年になりますと J R の方から直接、住民の方への説明会というものを設けてもらう、こういう段取りもしていきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。6 番青木議員。

6番  
青木議員 住民の参加へは、どういう形でやるのかは、むこうへ全部お任せという事  
ですか。住民説明会の場合は、それぞれの町村が声掛けて出てもらうという  
事にするのか、或いはJRが自ら住民の皆さん方を集めるのかというところ  
というのは分かりませんか。

議 長 番外三宅町長。

番外  
三宅町長 どちらが主催でそういう会を持つという事は決めておりませんが、これか  
ら6市町ですね、そういう中味につきましてはですね、今度19日に図って  
いきたいというふうに思います。

議 長 再質問ありますか。6番青木議員。

6番  
青木議員 いろいろ今お願いをした訳でありますけれども、出来れば存続という事で  
6市町の歩調を合わせて、或いは広島県側とも合わせてやっぱりとにかくや  
っていただきたいと。それと先ほども言いましたように各団体とも連携を取  
りながらという事が、やっぱり運動には大変大切ではないかなと思いますの  
で、そこら辺りもまた総会の中で一緒に話をしていただきたいと思います。  
またそれと一緒に会合をやるという事も大事ではないかなと思いますので、  
そこら辺りを要望として、お願いします。以上、終わります。

議 長 以上で、「JR三江線の存続について」の質問を終了します。

々 これをもちまして、青木議員の一般質問を終了します。